

大学生の困難な場面で頑張る姿勢を高める試み

樽 木 靖 夫

千葉大学・教育学部

Attempts to improve University Students' posture to work in difficult situations

TARUKI Yasuo

Faculty of Education, Chiba University, Japan

本研究は教師が指摘する同僚との協力による困難な場面での対処に注目して、困難な場面で頑張る姿勢に関する尺度を構成し、大学の授業で実施可能な2週に渡る授業を開発し、その効果を検討した。その結果、①困難な場面で頑張る姿勢に関する尺度は「仲間関係への方略のなさ」「仲間とともに取り組む」「課題への積極的な対処」「人を参考に困難にも頑張る姿勢」「困難にも頑張る姿勢」の5因子であった。②授業実践により尺度得点を高めることが明らかとなった。③学生の記事記述からも尺度の構成因子に関連する学びがみられ、絶望的な場面では一時的に家族、仲間のもとで充電して再度の挑戦を示す考え、仲間に助けを求める考えが多くみられた。

Teachers are looking to work with colleagues to deal with difficult situations. In this research, first, we constructed the scale of posture to work hard in difficult situations. Next, we developed a two-week class that could be implemented in university classes and examined its effects. Main results were as follows: ① The following five factors were the scales for the posture to work hard in difficult situations. They are "no strategy for peer relations", "working with colleagues", "actively deal with problems", "posture to work hard with reference to people", and "posture to work hard against difficulties". ② It became clear that the scale score increases by taking the developed classes. ③ From the text description of the students in the first class, the learning related to the constituent factors of the scale was examined. In the text description of the second class, I had the following idea: In a desperate situation, there were many thoughts about temporarily charging with family and friends to show another challenge. There were also many thoughts to ask friends for help.

キーワード：キャリア教育 (career education), 困難な場面で頑張る姿勢 (posture to work in difficult situations), 大学生 (university student), 仲間 (friend), 同僚 (work colleague)

問 題

大学生にとってキャリアの問題は就職できるか否かだけでなく、なりたい自分に近づけているのかという自己形成に対しても大きな問題である。Super (1957) は生涯発達における自己形成を基軸として、職業的発達の過程を自己概念の発達と受容、探索と現実吟味、自己概念を職業上の用語に置き換えることへ進展する過程としている。その理論によれば、青年期には自己概念を明確化するための探索と現実吟味を行う。すなわち、現在の自分がどのような興味、価値観、能力を持っているのかなどについての探索と自己概念を現実と照らした現実吟味を行うとしている。ここでの探索とは自分について考え評価する自己探索と職業世界について情報を得る環境探索を指す (Stumpf, Colarell, & Hartman, 1983)。

キャリア教育に関して、大谷・木村・藤生 (2013) は自己探索と環境探索がともに進路意志決定を促進することを明らかにしている。大学生のキャリア教育は、就職支援課による就職活動の実践に関する支援が多く、出

口支援に留まっている。これは環境探索に焦点をあてたものと捉えられる。職業やキャリアをテーマに生き方を考えさせる教育も実施されている (例えば、碇, 2015; 樽木, 2019; 樽木・大日向・馬場・川田・榊原・福田, 2013)。これらは自己探索に焦点をあてたものと捉えられる。

樽木ら (2013) は大学2, 3年生を対象に、どのような生き方をしたいかという「生き方に関する自己意識」と、どのような進路・職業を考えているかという「進路・職業的意識」について統合的に考える課題が大学生の自己形成に及ぼす影響をインタビューに基づき検討した。その結果、この課題は部分的に考えていた自己意識と進路・職業的意識を統合するのに有益であることが示された。さらに、この課題に取り組むことにより、事前より事後で自己探索に関する尺度の得点が上昇することも明らかにされている (樽木, 2019)。この「生き方に関する自己意識」と「進路・職業的意識」について統合的に考える課題は自己探索に向かわせる機会になると捉えられる。

碇 (2015) は短大における初年次教育として実施した「キャリアデザイン」科目について報告している。この

授業は、ビジネスマナー、自己理解、他者理解、社会・仕事理解、チームで働く力、キャリアプランニングを主な項目としている。学生へのインタビューによるとビジネスマナーの授業は好評であったが、自己分析のもと自分の理想像を構築し、それに向かうためのこれからの学生生活をプランニングする授業に対しては難しさが示された。ここでの自分の理想像の構築、これからの学生生活のプランニングの内容は自己探索に向かわせる機会と捉えられ、その授業実践の難しさが指摘されている。

一方、平成30年度の厚生労働省の調査「新規学卒者の離職状況」によれば、3割近くの新入社員が3年以内に辞めている。業種別では、教育・学習支援業は2位という離職率の高さである。教育委員会関係者からも新卒教師の打たれ強さ不足が指摘され、大学での教育も求められる。樽木(2017)では、そのような課題に対して、打たれ強さと類似する困難な場面で頑張る姿勢を提案し、アイデンティティ形成との関連を検討した。その結果、困難な場面で頑張る姿勢はアイデンティティ形成に影響することが明らかとなった。しかし、困難な場面で頑張る姿勢に関する尺度は「困難に耐える姿勢」「困難課題への対処」のわずか2因子構成であり、困難に耐えながらも次の作戦を練るといったものであり、現実的な場面への対処には不足感を覚えるものである。

小学校教師、中学校教師らと教職上の困難な場面とその対処について検討すると、困難な場面として、①児童・生徒への指導上の困難さ、②保護者との関わりの困難さがあげられた。困難場面への対処については、同僚教師との相談・協力による解決が多く語られた。このような教師の経験を参考にすると、困難な場面での対処には同僚との関係に注目して検討する必要がある。ここでは信念をもてることに対する困難場面を想定し、困難に耐えながらも仲間と対応策を練り、仲間との協力によって課題解決を図ろうとすることを困難な場面で頑張る姿勢とする。

そこで、本研究は困難な場面で頑張る姿勢に関する尺度を新たに構成し、大学の授業で実施可能な困難な場面で頑張る姿勢を高めることを目指す授業を開発し、その効果を検討することを目的とする。

方 法

(1)測定尺度

困難な場面で頑張る姿勢に関する尺度は、樽木(2017)を参照し、小・中学校教師らと筆者の計3名で議論して質問項目を作成した。具体的には、困難に耐える姿勢(うまくいっていない時でも頑張れ続けようとするなど5項目)、困難課題への対処(課題解決のための知識を得ようとするなど5項目)、仲間と取り組む姿勢(仲間と一緒に困難な場面でも頑張れそうだななど4項目)、仲間とつながる難しさ(相談に乗ってくれそうな人を探そうにないなど4項目)、他者を参考に困難に頑張る姿勢(頑張っている人を見て、自分も頑張らなくてはいけないなど3項目)の5カテゴリー21項目とした。測定は、とてもそう思う(6)～全くそう思わない(1)の6段階評定とした。

(2)研究協力者

大学教育学部の社会心理学に関する授業を履修する学生を対象とした。本授業実践期間に欠席のない計66名が分析対象となった。さらに、困難な場面で頑張る姿勢に関する尺度は、事前測定に出席し、本授業実践の2回中1回に欠席のある22名の事前測定と事前測定同時期の他授業を履修する38名を加えた計126名を対象に検討した。

(3)手続き

2019年7月の2週に渡り授業を実施した。事前測定は、小・中学校で行われているキャリア教育に関する内容、その基礎理論としての職業発達理論(Super, 1957)を紹介した後、行った。

1回目授業には、樽木ら(2013)の大学生向けのキャリア教育に関する課題を紹介し、以下に示す動画を用いた学修の後、1回目の測定と感想を記述させた。

動画教材はNHK連続テレビ小説「とと姉ちゃん」より、編集者花山が戦争での人々の暮らしを後世に残すことを熱望しながらも病に陥った場面で、仲間の協力によって、その仕事を成し遂げた以下の4シーン45分の動画を編集して用いた。

①戦争当初従軍していた花山が結核を患って日本へ戻り、戦地に残した友人を支えるために戦意昂揚の言葉づくりに関わっていたシーン

②終戦を迎え、自分が信じてきた「日々の生活よりもお国が大事」という考えが崩れ、戦争へ人々を駆り立てることに荷担してしまった責任からペンを2度と握らないと決意したシーン

③常子による編集者に戻って欲しいという繰り返しの説得を受け、再びペンを握ることを決めたシーン

④雑誌をつくりながら、「戦争での人々の暮らしを後世に残すこと」が花山のやりたいことであると自覚するが、病のために思うように行動できない。自分の信念を常子たち周囲に伝えることで、雑誌読者からの投稿原稿を編集することで病床でも対処可能とする方法、雑誌1冊まるごと戦争特集にする提案、そのための協力を得ることで成し遂げたシーン

2回目授業では、若者が夢を失う歌詞、浜田省吾作詞「路地裏の少年」(浜田, 2002)の歌詞付き動画を用いて、そのような場面で自分はどうかを考えさせ、文章記述を求め、2回目の測定を行った。30分の授業実践となった。

歌詞の内容は暗いが明るい曲調のため暗い気持ちにならずに困難な場面を想定できるものとして選択した。歌詞は次の三つの内容で構成されている。1番は父あるいは家族との別れと感じさせる内容であった。2番は仲間との別れを感じさせる内容であった。3番は長い間奏で歌詞は短く、絶望感や夢を失った状況を感じさせる内容であった。

この歌詞を考察するために、①歌詞の主人公の状況を考える。②その後、夢を失った状況であることを確認し、「あなたがこのような状況になったら、どうしようと思うか」を文章記述で求めた。その後、2回目の測定を行った。

結果と考察

(1) 困難な場面で頑張る姿勢に関する尺度の検討

困難な場面で頑張る姿勢に関する尺度の3回それぞれの評定分布を確認したところ、双峰分布や矩形分布はみられず、正規分布とみなして以降の検討を進めた。事前測定の前平均及び標準偏差を検討した結果、評定平均±標準偏差の値が評定範囲を超える項目もなく、分布の歪みはみられないとして、21項目全てを用いて因子分析（主因子法、プロマックス回転）を行った。因子負荷量の低い2項目（2活動がうまくいっていない時でも、良くやれていることを見つけようとする、5結果ではなく、自分が良く取り組めたかのプロセスに注目している）を削除して、再度の因子分析を行った。固有値1.0以上と当

該因子への因子負荷量.38を基準に検討し、解釈可能な5因子解を採用した。因子構成について表1のように、「仲間関係への方略のなさ」「仲間とともに取り組む」「課題への積極的な対処」「人を参考に困難にも頑張る姿勢」「困難にも頑張る姿勢」の5因子で解釈した。

「困難にも頑張る姿勢」の因子は削除した2項目以外の『困難に耐える姿勢』カテゴリー2項目と『困難課題への対処』の1項目で、「人を参考に困難にも頑張る姿勢」の因子は『他者を参考に困難に頑張る姿勢』の3項目と『困難課題への対処』の1項目で構成した。『困難課題への対処』がほぼ「課題への積極的な対処」、『仲間と取り組む姿勢』が「仲間とともに取り組む」、『仲間とつながる難しさ』が「仲間関係への方略のなさ」の因子を構成した。

表1 困難な場面で頑張る姿勢に関する尺度 因子分析結果（主因子法、プロマックス回転）N=126

No. 質問項目	fac1	fac2	fac3	fac4	fac5	h ²	Mean	S.D.
fac1:仲間関係への方略のなさ $\alpha = .88$								
15 私には相談に乗ってくれそうな人を探そうにない	.96	.04	.04	-.11	.08	.93	2.70	1.09
16 私には一緒に取り組めそうな人を見つけられそうにない	.90	-.06	-.05	.02	.03	.81	2.67	.98
18 私は、仲間でも本音で相談できそうにない	.72	.00	.03	-.03	-.05	.52	2.95	1.18
17 私には、自分からは仲間と一緒にやって欲しいことを提案できそうにない	.69	.01	-.09	.06	-.13	.50	2.97	1.15
fac2:仲間とともに取り組む $\alpha = .86$								
11 私は、仲間と一緒に困難な場面でも頑張れそう	-.10	.91	-.13	-.05	.02	.85	4.29	1.06
12 私は、仲間と一緒に取り組む方だ	-.06	.83	.02	-.12	-.06	.72	4.13	1.15
14 私は、課題解決のために仲間のアイデアを参考にしようとする	.21	.66	.14	.19	.03	.53	4.58	.88
13 私は、同じような希望をもつ人と一緒に取り組みたい	.00	.64	.10	.15	.02	.44	4.62	.93
fac3:課題への積極的な対処 $\alpha = .75$								
7 私は、必要なら、新たな知識や技能を身につけようとする	-.09	.02	.77	.11	-.07	.61	4.84	.72
6 私は、課題解決のための知識を得ようとする	.05	.08	.77	-.02	.03	.60	4.71	.69
8 私は、考えるための情報を収集しようとする	.07	-.10	.65	-.13	.15	.48	4.33	.79
9 私は、自分の強みを活かすように工夫する	-.16	.14	.47	-.11	.09	.28	4.37	.87
fac4:人を参考に困難にも頑張る姿勢 $\alpha = .73$								
20 私は同じような経験をもつ人のアドバイスは参考になると思う	-.02	.00	.23	.80	-.29	.77	4.95	.78
19 私は、頑張っている人を見て、自分も頑張らなくてはと思うことがよくある	-.07	.04	-.25	.80	.12	.72	4.58	1.02
4 私は、価値あることに取り組むには、耐えることも必要だと思っている	.13	.02	.11	.40	.25	.25	4.51	.90
21 私は、何が足りなかったのかを整理しようとする	-.07	-.16	.33	.39	.18	.32	4.21	.85
fac5:困難にも頑張る姿勢 $\alpha = .58$								
1 私はうまくいっていない時でも、頑張り続けようとする	-.06	.07	-.10	.20	.74	.61	3.87	.94
10 私は、課題に対して計画的に取り組む	-.08	.01	.19	-.21	.56	.40	3.43	1.19
3 私は、困難に向き合わず逃げようとする	-.08	.09	-.14	-.06	-.38	.18	3.42	1.01
因子間相関								
	fac2	-.44						
	fac3	.07	.30					
	fac4	-.09	.48	.53				
	fac5	-.05	.36	.35	.33			

除外された項目

- 2 私は活動がうまくいっていない時でも、良くやれていることを見つけようとする
- 5 私は、結果ではなく、自分が良く取り組めたかのプロセスに注目している

表2 困難な場面で頑張る姿勢に関する尺度得点の変容 N=66

変数	事前		1回目		2回目		主効果 $F(2,197)=$	LSD法による 多重比較
	Mean	S.D.	Mean	S.D.	Mean	S.D.		
仲間関係への方略のなさ	2.74	.74	2.57	.80	2.58	.83	3.22 *	事前>1回目・2回目
仲間とともに取り組む	4.38	.84	4.64	.75	4.74	.68	17.02 **	事前<1回目・2回目
課題への積極的な対処	4.47	.58	4.72	.56	4.77	.61	16.56 **	事前<1回目・2回目
人を参考に困難にも頑張る姿勢	4.47	.62	4.69	.57	4.70	.61	8.55 **	事前<1回目・2回目
困難にも頑張る姿勢	3.70	.70	3.90	.72	3.94	.73	5.65 **	事前<1回目・2回目

**: $p<.01$, *: $p<.05$

(2)尺度得点の変容

困難な場面で頑張る姿勢に関する5因子それぞれについて、当該因子項目の評定合計を項目数で除した得点の変容を変数ごとに1要因参加者内分散分析により検討した(表2参照)。その結果、「仲間関係への方略のなさ」

については5%水準で有意差がみられ、LSD法による多重比較の結果、事前に比べて1・2回目の得点が低かった。「仲間とともに取り組む」「課題への積極的な対処」「人を参考に困難にも頑張る姿勢」「困難にも頑張る姿勢」については、それぞれ1%水準で有意差がみられ、多重

表3 1回目の授業後の学生の文章記述と尺度の関連因子

1回目の授業後の文章記述の整理	関連因子
A: 仲間と一緒に取り組めれば自分も頑張る糧になる 何か上手くいかないことがある時というのは、その悪かった部分だけが見えてしまって、自分のことを追い詰めてしまいがちで、負の連鎖になってしまうような気がする。でも、そこから抜け出させてくれようとする言葉かけや仲間の存在はとても大きいもので、とてもありがたい存在だと感じた。 また、既存のものとは全く違ったものを新しく始めるというのはとても勇気がいるので、なかなか踏み出すことができないし、周囲からの目も気になってしまうかも知れない。その時に、一緒に頑張ってくれる人、一緒に取り組んでくれる人が居たら自分自身も頑張る糧になると感じた。 一人では成し遂げることができなかったもの、見えなかったものが誰かと共有することでできるかも知れないし、広い視野をもつことができるかも知れないと考えた。人と人の関わりがもたらすものは大きい。	fac2 仲間とともに取り組む
B: サポートしてくれる仲間関係を維持するには信念を貫くこと 花山が戦意昂揚の執筆に関わって筆を執らなくなった経緯や再び筆を執り、言葉を伝えることになった流れがすべて花山の信念に叶ったもので、強く気持ちをもてるのは凄いことだと思いました。 また、再び筆を執り、月日を積み重ねることによって、自分のやりたいことを見つけ、そのやりたいことに対して全力でサポートしてくれる仲間がいるということは花山にとっても幸せなことだったのではないかと思います。それは、花山が信念を貫こうとする姿勢を保ち続けたことから起こったことではないでしょうか。	fac1 仲間関係への方略のなさ
C: 常子の最後まで諦めない姿が花山を変えた 花山は自分の才能や適性、やりたいことに気づいていながらも目を背けているように見える。また、彼は本来、誰かに相談して解決するタイプではなく一人で悩み一人で決断するタイプだったため、今後について何か不安やモヤモヤ感があっても一人で抱え込んでいたのだろう。 そんな中、花山の才能を必要とする常子が現れ花山に断られても最後まで諦めない姿を見て、今までのつらさや後悔を打ち明けていく内に、「なりたいたい自分・やりたいこと」を見つめ直すことができたのだと考えられる。 常子や周りの人々との出会い、やりとりが花山自身を変える大きなきっかけとなったのだと思います。	fac4 人を参考に困難にも頑張る姿勢
D: 強みを活かそうとすること困難を自覚することが大切 コーヒー屋を営んでいる花山は、本当に嫌だったら説得に来た常子に自分の気持ちを話したりしないと思います。心のどこかで編集の仕事に戻りたい気持ちがあるからこそ、正直に話せたのだと思います。 「戦争の記録を残すという自分のやりたいこと」が見つかった。病気という困難はあるが、仲間とともに頑張ることができ、それが実現に向かった。仲間に助けられたのも、信念をもち、編集という自分の強みを活かそうとすること、困難がどんなものかを自覚することが大切だと分かりました。	fac3 課題への積極的な対処
E: 困難に勝つには何を大切にしたいのを明確にしておくのが重要 花山さんのアイデンティティについて、ペンを握らない理由に言葉の脅威があり自分自身がその恐ろしさを知ったと話していたことにとっても納得できたし、その後の自分の責任として戦争の記録を伝えていくことを決めるという行為は強い覚悟の表れだと思った。確固たる信念があったからこそ、病気に負けずに何年も経った後に記録を残すことが実現できたのだと思う。 自分が何をすべきか、何を大切にしたいのかを明確にしておくことがキャリア教育の助けにもなるし、人生の選択においても重要なことだと感じた。	fac5 困難にも頑張る姿勢
F: 困難な場面で頑張る姿勢への全般的な感想 言葉には人を助ける力がある一方、人々に嘘を伝えてしまう可能性もあり、それによって人々を傷つけることもあることを知り、壁にぶつかった花山に常子が説得したことで、花山は自分のしたいことに気づくことができた。このように、仲間の助けや協力があることで困難に立ち向かうことができるのだと強く感じた。 また、常子のように、自分には何が足りないのか、花山など周りの意見を参考にしながら何度も考え直すことで解決策にたどり着くこともあるから、課題解決のために知識を得たり、耐えながらも努力することが大切だと感じた。	困難な場面で頑張る姿勢への全般的な学びで関連因子は特定できず

比較の結果、事前に比べて1・2回目に得点が高かった。すなわち、一連の実践授業により、困難な場面で頑張る姿勢に関する「仲間関係への方略のなさ」を低め、「仲間とともに取り組む」「課題への積極的な対処」「人を参考に頑張る姿勢」「困難にも頑張る姿勢」を高めていた。

(3)学生の記事記述による検討

まず、1回目の授業の感想を、多くの同様な意見を代表すると考えられる6名について表3に示した。表3には文章記述の整理と困難な場面で頑張る姿勢に関する尺度の関連因子を示した。A～Fは学生個人を表し、見出しは筆者がつけた。

Aは一緒に頑張ってくれる人、一緒に取り組んでくれる人が居たら自分も頑張る糧になると感じている。それは、一人では成し遂げることができなかったもの、見えなかったものが誰かと共有することでできるかも知れないし、広い視野をもつことでできるかも知れないと考えていることによる。そして、人と人の関わりがもたらすものは大きいと、仲間の存在の大きさについて学び、仲間とともに取り組む重要性を理解したと捉えることができる。そのため、困難な場面で頑張る姿勢に関する尺度の関連因子は「仲間とともに取り組む」と判断した。

Bは編集者花山が再び筆を執り、自分のやりたいことを見つけ、やりたいことに対して全力でサポートしてくれる仲間がいることはとっても幸せなことだとしている。それは、花山が信念を貫こうとする姿勢を保ち続けたことから起こったと考え、自分のしたいこと、すべきと考えることについて信念を貫く姿勢が支える仲間を維持し続けたと捉えている。そのため、困難な場面で頑張る姿勢に関する尺度の関連因子は「仲間関係への方略のなさ」と判断した。

Cは編集者花山は誰かに相談して解決するタイプではなく、不安やモヤモヤ感があっても一人で抱え込んでいたと捉えている。しかし、断られても諦めない常子や周りの人々とのやりとりが花山自身を変える大きなきっかけとなり、「なりたい自分・やりたいこと」に向き合う決心ができたと考えている。つまり、常子の振る舞いを参考に花山が困難にも頑張る姿勢に結びつけたことを学んだように受け取れる。そのため、困難な場面で頑張る

姿勢に関する尺度の関連因子は「人を参考に困難にも頑張る姿勢」と判断した。

Dは編集者花山が心のどこかで自身の強みである編集の仕事に戻りたい気持ちがあるからこそ、説得に来た常子に自分の気持ちを正直に話せたと考えている。花山に「戦争の記録を残すという自分のやりたいこと」が見つかった。病気という困難はあるが仲間とともに頑張ること、それが実現に向かった。信念をもち、自分の強みを活かし、困難を自覚することで、仲間を援助資源として受け入れることができたことと花山の考えの変化を捉えている。そのため、困難な場面で頑張る姿勢に関する尺度の関連因子は「課題への積極的な対処」と判断した。

Eは編集者花山には戦争の記録を残すことを成し遂げたいという確固たる信念があったからこそ、病気に負けずに実現できたと捉えている。キャリア教育としても人の生き方としても、自分が何をすべきか、何を大切にしたいのかという明確な信念をもてるものには困難にも頑張れることを学んでいるように受け取れる。そのため、困難な場面で頑張る姿勢に関する尺度の関連因子は「困難な場面にも頑張る姿勢」と判断した。

Fは壁にぶつかった花山に常子が説得したことで、最終的には花山は自分のしたいことに気づけた。そして、そこでの仲間の助けや協力があることで困難に立ち向かうことができると強く感じている。常子のように、自分には何が足りないのか、周りの意見を参考にしながら何度も考え直すことで解決策にたどり着くこともあるため、課題解決のために知識を得たり、耐えながらも努力することも大切だと感じている。このように、仲間の助け、新たな知識を得ながら耐えることで困難な場面で頑張れるという困難な場面で頑張る姿勢への全般的なことを学んでいる。そのため、困難な場面で頑張る姿勢に関する尺度の特定な関連因子は判断できなかった。

このように、本研究が目指している困難な場面で頑張る姿勢は、一度の判断を闇雲に貫くことを奨励するのではなく、信念をもてることに対して困難が生じた場面での頑張る姿勢を想定したものである。以上のように、困難な場面で頑張る姿勢に関する尺度の構成因子に関連する学びがみられ、本授業実践に対して質的にも検討するこ

表4 2回目の授業後の学生の記事記述

G:まずは充電し、夢は一つでないのではと考え直す
1番のように「守られていた時代」に戻ろうと思います。具体的にはふるさと、家族、仲間のもとに戻り充電します。充電し終えた後、何度も1番から3番を繰り返す、「口ずさめば悲しい歌ばかり」ということにならないように、また、違う夢を追い続けられるようになりたい。 この歌詞は1番から3番で「路地裏」だけを観ています。これは夢の一つとして、その一つのみをずっと追ってきたことを示していると考察します。だからこそ、一つの夢のみに執着せず、後ろを向けば他の道も広がっていることを心に留めたい。
H:これから何とかなると考える、周囲の人と話す
今まで、色々なことを経験して、それなりの絶望感だったり、諦めがあったけれど、今こうして前に進めていたという事実があるのだから、これから大丈夫だと思って、まずはメンタルをなおしてから、具体的な行動に移す。自分だけでどうにもならなかったら、周囲の人と、たくさん話す。
I:諦めないが無理せず周囲に助けを求める
今まで頑張ってきた自分のためにも、その自分を裏切らないためにも、それでも前に歩いていく。だけど、無理はしないで、ダメだと思ったら周囲の人に助けを求めたりして、支えてもらいながら、目標やゴールを目指していく。

とができたと考えている。

次に、2回目の授業の文章記述を検討する。多くの同様な意見を代表すると考えられる3名について表4に示した。G～Iは学生個人を表し、見出しは筆者がつけた。

Gには次の三つの考えがみられる。一時的にふるさと、家族、仲間のもとに戻り充電すること。再度の挑戦を考えること。一つの夢のみに執着せずに、他の道も広がっていることを考えようとするのである。

Hには、肯定的に捉えられる部分を探して絶望感を和らげる考えと、周囲の援助を求める考えがみられる。Iにも引き続きの挑戦はしながらも、無理せず、周囲の援助を求める考えがみられる。

絶望的な場面では、Gのように、一時的に家族、仲間のもとに戻り充電して、再度の挑戦を示す考えは多くみられた。研究協力者である学生は望ましい家族関係や仲間関係の中で過ごし、簡単に諦めない様子も伺える。

また、1回目の学びが影響したか、H、Iのように、仲間に助けを求める考えも多くみられた。他者に援助を求めることへの抵抗感を低めていることも考えられる。

まとめと今後の課題

教師が指摘する同僚との協力による困難な場面での対処に注目して、大学で実施可能な授業を開発し、その効果を検討した。尺度得点の変容及び学生の文章記述からも、仲間と困難な場面に対処するという学びがみられた。2回目の歌詞考察の授業でも得点が下がらなかったのは、1回目の授業を連想することによるものと考えられる。これまでのキャリア教育では、今後の生き方や職業について考える課題や研究がみられた(碓, 2015; 樽木, 2019; 樽木ら, 2013)。しかしながら、本研究で提案したような、困難な場面で頑張る姿勢は、どのような職業や人生場面にも必要とされる概念と考えられる。

実際に困難な場面を授業等で経験させることは倫理的にも認められないが、シミュレーションに過ぎなくとも、困難な場面で頑張る姿勢を高めるような学びに関する教材開発および授業開発が必要と考えている。本研究では、仲間との関わりが困難な場面での援助資源になり得ることに注目している。しかしながら、社会人が指摘する仲

間や同僚を大学生が理解できているかについての疑問は残る。大学生としてもサークル活動やアルバイトなどで周囲の援助を得る経験はあるかも知れないが、責任の範囲や終了時期などが限られている場面と捉えれば、その場から去ることで困難を回避する方法も採りやすいと考えられる。つまり、信念をもてることに対する困難な場面であるかが重要な鍵となるであろう。

今後は、大学生にとって、仲間や同僚と友だちの違い、仲間や同僚とつながるにはどうするかを考えさせる機会も必要である。

引用文献

- 浜田省吾 2002 路地裏の少年 (「WE ARE STILL ON THE ROAD.」より) 浜田省吾 Official YouTube Channel
- 碓ともみ 2015 奈良佐保短期大学におけるキャリアデザイン科目授業実施報告 奈良佐保短期大学研究紀要, 23, 25-32.
- 大谷哲弘・木村倫史・藤生英行 2013 就職を希望する高校生における進路探索行動と進路意思決定との関係 学校心理学研究, 13, 29-39.
- Stumpf, S.A., Colarell, S.M., & Hartman, K.1983 Development of the career exploration survey (CES). Journal of Vocational Behavior, 45, 79-122.
- Super, D.E.1957 The psychology of careers: An introduction to vocational development. New York; Haper & Brothers. (日本職業指導学会(訳) 1960 職業生活の心理学－職業経歴と職業的発達－ 誠信書房)
- 樽木靖夫 2017 大学生の困難な場面で頑張る姿勢がアイデンティティ形成におよぼす影響 日本学校心理学会第19回大会プログラム・発表抄録集, 65.
- 樽木靖夫 2019 大学生のキャリア教育における自己探索と現実吟味を高める試み 千葉大学教育学部研究紀要, 67, 17-23.
- 樽木靖夫・大日向浩・馬場千秋・川田裕樹・榊原健太郎・福田八重 2013 課題「なりたい自分」についての実践事例による検討 帝京科学大学紀要, 9, 125-131.